

DDK活動と助け合える職場づくりの流れ

モチベーションアップ
更なるDDK活動促進へ

4S

整理・整頓・清潔・清掃を徹底。
不要な物を捨て、道具の置き場
所を明確にする。

仕事の分別と整理

DDKできる作業、できない作
業を分ける。

仕事の内容整理・整流化 (DDK活動)

工程における作業内容を見直し、必要な作業・無駄な
作業を分けるなど、問題を整理し正しい仕事の流れを
つくる。誰でもできるように、道具類の位置決め、表示
を行う。作業手順・各種マニュアルを整備し、工場内の
誰でもが見えるところに表示する。



スキルアップな
ート、派遣、社員
何を手伝えるの
目瞭然。作業ご
せられる』『段階
はできる』『出
に表示。



が入ることができる。例えば「今朝子どもが熱を出したので休暇を」といった緊急時にも対応可能。作業によって難易度があり必要なスキルが異なるが、スキル表が表示され、誰が何を手伝えるのかも一目瞭然でわかる工夫がされている。多様な経験を積んだエルダー社員（高齢者雇用社員）や事務職員までも作業者の休暇取得の穴を埋めることができる仕組みになっている。

同時に、スキルアップのための教育訓練およびDDK活動に関する教育が全従業員に実施される。社内外で実施される研修を受けると共に社内資格を含めた各種資格を取得できる。「こうした教育による個人のスキルアップが、更なるDDKの進化を促していきます」と柴田さんは話す。

生産性向上を目的に始まったDDK活動。しかしその効果はそれだけにとどまらず、社員同士の助け合いや休暇取得向上につながった。ワーク・ライフ・バランスは、余裕のある大企業が行うものという認識の企業がまだまだ多いが、中小企業こそ菱琵テクノのようにコスト削減と従業員のワーク・ライフ・バランスの両立に挑戦できる機動性があるはずだ。